

第12回 「国境離島の保全、管理及び振興のあり方に関する有識者懇談会」議事概要

【日時】 平成26年5月26日（月）15：00～16：30

【場所】 中央合同庁舎第8号館 8階特別中会議室

【出席者】 奥脇座長、磯部委員、木場委員、志方委員、渡邊委員

「○」は委員からの発言、「→」は発言に対する説明者等からの回答

1 最終提言の方向性について

事務局から、これまでの議論について説明したのち質疑応答。

○これまでの議論の整理については、概ねまとまっていると思うが、更に加えるものがあれば、発言をお願いしたい。国民の啓発は、必要であり実際に何をするのかということに対して、「例えば」というような形で具体的に書くのがよいのではないか。提言は抽象的な書きぶりになりやすいと思うが、読み手に分かりやすいように具体性を持たせるよう工夫してほしい。

○国境離島の保全・管理の方法について、土地取得、利用規制、公物管理など様々なやり方があるが、優先度の差に応じて最適な保全・管理方式を選択するなど状況に応じて多様なやり方が可能といえる書きぶりがいい。

また、具体的な記述方策については、本文に記述するのが難しければ、議論の内容を端的に紹介するという方法もあるのではないか。

○具体的な記述については難しい部分もあるが、提言を読んだときに、何ができるのかイメージできるように、記載は具体性があるといいのではないか。トピックとして西之島の話を取り上げるなどの工夫があってもよい。国民啓発のための企画については、主体が不明にならないようにしてほしい。

また、本文に書きにくいということであれば、別紙という形をとってもよいと思う。

→ツールが色々あるなかで、コンテンツをどうするかということが非常に大事と思っている。

○提言に、ポジティブな面はどんどん書けばいい。しかしながら、離島を守ること

については触れられていない。外国漁船が大量に操業し日本漁船を妨害する、また、取り締まりに力で対抗してくるといような事態の発生に対する懸念、これが離島住民の1番の関心事項ではないか。

また、離島の監視について、人の目のみに頼らず空からの画像により変化を確認する方法もある。

○離島の変化を確認する方法として、一定間隔で映像を更新し、公表すれば変化の状況が一般の方でも確認できるのでITを活用した離島監視の方法を通じて、一般の方々に関心を持っていただくことにもつながるのではないか。

○緊急入域した外国漁船が大量に入ってくることに對して、恐ろしいと感じている離島住民もいる。一方で避難港として機能することが必要である。不安感と実際の行動が違ふことも考慮する必要がある。

また、具体的な施策を本文に書くのが難しいのであれば、実際の事例を紹介する形で書くというのも1つの手ではないか。

→衛星等を活用した監視についても、考えていきたい。

○漂着したゴミ拾いを協力して行っている例があるが、具体的に行われたことは例示として書くこともよい。

→資料をつけることで、イメージがわかりやすいものに仕上げていきたい。

○これまで、国交、防衛、文科分野の意見があったが農水分野のものがない。

○水産業は離島にとって重要な産業であるとともに、水産資源の保護は世界で注目されている問題ではあるが、こういった特定の問題を提言の中で言及するにあたっては、提言全体に影響を及ぼさないように書き分けることが必要。

○水産資源については、離島に絡めた書き方ができるか検討してほしい。

○具体例を本文に書くと流れが悪くなるかもしれない。妥協案として註やインデントをつけることも考えられる。

○本日の議論を事務局で整理して、委員に改めて確認して欲しい。委員から追加意見があれば、メール等で事務局までお願いする。

→本日のご意見を整理し、委員の先生方に確認させていただく。

以上